

主なものとしては、
 ◇ 福祉保健課では、保護係が厚生係、高齢者対策係が高齢対策係、保健予防係が健康係に変わります。

◇ 生活環境課では、交通・公害係が環境対策係に名称を変更します。また、ゴミの再資源化対策や最終処分場の検討等を行うため美化衛生係を新設します。

◇ 社会教育課に施設係を設置し、施設係の事務室を所野運動公園管理事務所に配置します。

《変わります！》

おたずねは ☎五四一一一一

○ 国民健康保険の窓口は市市民課国民健康保険係（市役所一階）

○ 栃木県交通災害共済の窓口は生活環境課環境対策係（市役所二階）

○ 公害苦情の連絡は生活環境課環境対策係（市役所二階）

○ 犬の登録や狂犬病予防注射のおたずねは生活環境課環境対策係（市役所二階）

○ 合併処理浄化槽補助金の申請は生活環境課美化衛生係（市役所二階）

○ 市の広報や市政懇談会のおたずねは企画課 広報広聴係（市役所三階）

○ 各種検診や予防接種のおたずねは福祉保健センター ☎五四一一一四三（福祉保健課 健康係）

○ 乳幼児 妊産婦医療費助成の申請は福祉保健センター ☎五四一一一四三（福祉保健課 健康係）

○ 所野運動公園体育施設の申し込みは所野運動公園管理事務所 ☎五四一一五八五

（社会教育課 施設係）

以上、概略を説明いたしました。詳しくは六、七頁の「日光市行政機構図」と「日光市役所事務室配置図」をご参照ください。

老齡福祉年金受給者のみなさんへ！

老齡福祉年金は年三回（四月・八月・十二月）の各十一日から）支払いが行われます。

四月期・八月期の二回、年金を受け取ったあとに「年金証書」を提出することになっています。

四月期支払い後の年金証書の提出は、物価スライド制が導入されたことにより、四月・七月分の改定後の支払い額を「年金証書」に記入する必要があります。

また、八上期支払い後の年金証書の提出は、福祉年金を受けている人やその配偶者、扶養義務者等の前年の所得、さらには他の公的年金の受給の有無などを調査し、引き続き年金が受けられるかどうかを確認して、年金証書に八月



美術館準備班 だより ③

作品紹介 15
 小杉放庵
 「草庵訪友」
 紙本、着色

老夫婦が囲炉裏を囲んでいる山中の一軒家を、鳥を手に提げた人物が訪れようとしている情景を描いた作品で、放庵にしてはめらしく、他の色彩をまったく用いずに、墨一色だけで画面をまとめています。そして、まるで画面を左右に半分に分けるように下辺の中央から上辺の左側に伸びる大きな木を描き、その木の根本、すなわち画面の右下部分に老夫婦のいる草庵と 風呂のある離れを配することとで画面の右下から左上に対角線を構成し、その対角線上に草庵を訪れる人物や黒い土坡などの重要なモチーフを重点的に描き込んだ構図の工夫には、昭和初期までの放庵の日本画の特色がよくうかがえます。

しかし、土坡を黒で真っ黒に塗りつぶして独特の存在感を主張させる表現方法には、晩年の「寒山拾得」や「金太郎」などに現れた真つ

黒な岩との共通性を感じさせますし、画面の中心を左右に横断するように描かれた遠景の山並みの部分などには、西欧の風景画に見られるような奥行きをもった空間性が現れています。さらに、上方に伸びる木々の枝を細い墨の描線によってリズムカルに表現した筆技の冴えも見逃せません。

ところで、放庵の父親で二荒山神社の神官であった小杉富三郎が、放庵の誕生後すぐに小倉山の山腹に建てた一軒家に移り住み、幼い日の放庵もその場所であつたことは、いままでもこの欄で何回か紹介しましたが、この作品にはこの作品に描かれた情景の雰囲気、たとえば、遠景の山の見え方や手前の大きな木の生え方、ゆるやかな坂を下りながら草庵へ近づくとアプローチなどは、その小倉山の山中の場所をたいへん似通っているように思われます。おそらく、草庵の中で囲炉裏を開いている老夫婦は、放庵が自らの幼い頃を回想して描いた自分の父母の姿か、あるいは、五十代を迎え老境に入りかけた放庵が父母との思い出に重ね合わせた自分たち夫婦の姿なのでしょう。そして、ここにも、自らの憧れる理想の生活を絵画化して表現しようとした放庵の絵画の特色を見ることができるとは思います。

